

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホームさくらそう (ユニット名:かのか)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028番地1		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果確定日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivogyoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成26年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらそうの理念の中心にある『笑』がある生活をスタッフ全員で入居者の方々を支え、笑顔で1日過ごして頂く事を目標に支援していくように努めている。
その為に、ご家族からの話を聞いたり、ご本人の特技や好み等を情報収集しケアに活かすように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさくらそうは住宅と田園に囲まれた風光明媚な場所にあり、静かな環境の中で生活をされている。建物の中庭にある菜園で利用者と職員と一緒に作物をつくる準備をされている。居室内の窓から見える九州新幹線や鹿児島本線の列車など旅情豊かな場面も伺えた。利用者一人ひとりに合わせた支援を提供され、理念である自由、笑、思いやり、安心、信頼をモットーに全職員に周知し日々の支援にあたっている。
協力病院の植田病院や連携の老人保健施設、特別養護老人施設もそばに在るため緊急時が発生してもいつでも協力体制が図られているため安心感が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、思いやり、笑い、安心、信頼を理念とし、みんなで支えあい、楽しく笑いながら、慣れ親しんだ筑後で過ごして頂く事を職員が共有できるように目に付くところに貼り付け一人ひとりが役割を果たす様にしている。	グループホームさくらそうの理念(自由、思いやり、笑、安心、信頼)を職員が常に見られるように玄関口右側の壁に大きな紙に大きな文字で書かれ掲示されていた。 管理者と職員間の連携も研修や勉強会を通じて行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の秋祭りに地元地域の方々を紹介した。また、町内の草取り、河川浄化へ参加を行い交流に努めた。	地域の自治会に加入し地域での行われる行事などに参加をし、事業所でおこなう行事にも参加を促し呼びかけている。 また、地域の方より採りたて野菜などの提供もあり、老人会などと相談をしながら交流を図っている。	地域の人たちがグループホームさくらそうを気軽に見学や施設訪問などを行いやすいような取り組みを考え、多くの人の参加を呼び掛けていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症についての勉強会を行っていきたいが、開催していないのが現実。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方やご家族からの意見を聞く時間を設けている。行政からのご指導は受けているが、ご家族の参加が少なく意見があまり出ないことが多い。話しやすい環境環境づくりを検討していかなければならない。	2カ月に1回定期的に行われている運営推進会議において、区長、行政担当者、地域包括支援センター職員、ご家族、管理者、職員等の参加を得て、事業所における問題点やインシデント、アクシデントの報告を行い改善策を見出し事業運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡は取っていないが、分からない事があれば尋ねていこうと思っている。	月1回の地域グループホーム部会において、市町村担当者との協議を行い連携を図っている。認定手続きを行う際に行政担当者に日頃の状況などを伝え交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。外に出ようとする利用者の方には職員が付き添う様になっている。玄関の施錠は、夜間帯、20時～7時頃までは施錠しているが、その時間以外は施錠していない。	身体拘束については、入所説明時及び入所契約時に説明を行っている。現時点では該当者はいないが、今後対象者がいても良いように研修を通じて職員に周知徹底している。日中は施錠しておらずセンサーが鳴るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習会や同グループの研修、勉強会の中で、虐待について考える機会を設けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講習会や同グループの研修、勉強会の中で、成年後見人制度について考えている機会を設けているが、現在、該当する入居者はいない。	月1回で行っている研修において、社会福祉協議会でもらった冊子を基に成年後見人制度等の仕組みを確認している。該当する利用者はいないが将来を見据えて行政や社会福祉協議会等を通じて取り組みをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず読み上げ1つ1つ確認し理解と理解を得ている。何かあればご家族と話し合いの場を作り説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており確認するが殆ど入っている事が無い。ご家族からは、面会に来られた時等、スタッフが声掛けを行い意見を聞く様にしている。	意見箱を設置しているが家族からの意見や要望などの声は聞かれない。家族が面会に来た時を利用して担当職員が口頭での意見や要望を伺うようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常でも聞く状態として受け入れおり、その都度管理者間で話し合っている。	職員の考えや意見などを管理者とのミーティングを利用し要望等を伝えている。職員間での報連相を行い働きやすいような環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を提示、勤務状況も個々に合わせられるよう最大限に努め、何かあれば面談などでその都度説明している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	性別、年齢等での対象外はなく、幅広い年齢層での職員が働いている。	職員の年齢幅には大きな開きがあるが、年齢にとらわれずお互いに気付いたことは注意し合い働きやすい環境になるように努力している。職員の年齢層は20代～60代後半で構成され、親子ほどの開きはあるがお互いを助け合っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議や日々の業務の中で指導にしている。	人権教育は研修会を通じて職員に通知している。言葉づかいや容姿等を確認し合い、利用者個々の処遇を共有して対応している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップができるよう、法人内外での研修を受ける機会を作っており、参加を勧めている。また、個々の職員の成長に合わせて仕事の分担を行う様にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し月に1度勉強会や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人1人がコミュニケーションを図り、何かあれば連絡ノートや記録を通して情報共有し改善に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時に不安や要望を聞くようにしており、その場で答えられない場合は早急に答えられる様に関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人、こちらでも他サービス利用が必要と思われる場合は話し合いの場を作り対応できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビの内容や季節に関してなどの世間話をしている。季節感での行事の中でもご利用者と一緒に昔ながらの風習を盛り込み行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況に合わせて受診や散髪の依頼。必要であればご家族へ外食の依頼を仰いでいる。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係を強く望まれている方は職員やご家族協力での外出などの支援に努めている。	知人、友人の面会はあるが、頻度は少ないため訪問した時は話しやすいよう、またプライバシーにも注意して居室で対応している。 家族での外出の時は、帰られた際にご家族より外出での状況等を報告してもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの共有空間ではご利用者の状態や関係に合わせて必要に合わせて固定の席を変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も関係性はそのまま保ち、必要時にはアドバイスや併設事業所との相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご意向や思いなどに沿ってできるかぎり支援できるように努めている。	利用者の趣味嗜好等は、ご家族より確認を行いそのことをフェイスシートに記載し、全職員が共有できるようにしている。また、利用者にも口頭などで聞いて記録し活用している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からやご家族から、普段の生活の中からその人らしさを把握することに努め、フェイスシートを活用している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員1人1人の観察から記録、連絡ノート等情報共有し把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の面会時や介護計画作成時にはご家族との密な内容を話し、現場職員からの情報の活用に努めている。	介護計画に基づいて利用者の支援にあたり、その日の体調等を確認しながら行っている。3か月に一度の介護計画について会議を行い継続や見直しなど日頃からの変化についても職員間で話し合い記録等を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの気づきは記録に残し送りとして残し連絡ノートで、申し送りで情報共有。必要時はカンファレンスを開いての見直しを行う。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設だけでは無く、併設施設と協力を行いながらご本人様にあったサービスが出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物やドライブ、散歩など地域資源を活用、又は把握するように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応での受診だけではなく、必要時には職員も受診に付き添い生活状況や状態を説明している。又ご家族希望でのかかりつけなどに沿って対応している。	かかりつけ医については、利用者個人のかかりつけ医で、対応は家族でお願いをしている。家族の都合より同伴をできない時には、職員対応で行っている。受診後はご家族への報告し、家族での対応は事業所への報告をお願いしている。緊急時においては、契約時に家族へ希望をとっている、緊急医療機関へ搬送している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあればすぐに報告するよう取り組み、必要に応じて受診に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医への連絡や入院の際にも必要時に訪問している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になられたご利用者はいないが、体調不良から風邪も含み初期段階から細かくご家族へ情報を発信している。	重度化に対しては、月一度の研修等で全職員で取り組んでいるが、利用者のご家族については、契約時に重度化についての文書を持って説明を行っている。今の段階では事例はなく、これからの課題としている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署から講師を招いての救急救命の研修で心臓マッサージやAEDの訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施し、併施設設との避難場所や緊急連絡網の協力体制はできている。地域との協力体制までは至っていない。	開設当初より年四回の昼夜の避難訓練等を実施しており、そのうちの2回は夜間想定で行っている。避難場所については、校区内の学校などの避難指定場所を確保し、非常時に備えて全職員に通達している。また、消防署や関係機関等との連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学ぶ機会を設け、その場でのアドバイスなどを行っている。	個々の利用者に合わせて支援を行っている。言葉遣いに問題がある職員がいた時は、その場所から離れたところで利用者にわからないような形で職員に注意をする。研修会等での課題として話し合い理解を求めて周知している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えやすい環境や雰囲気作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて柔軟に対応できるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、洗顔の支援し、理美容を招いての洗髪を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に合わせて一緒に取り組む機会を設けている。	同じテーブルの利用者の食事の仕方に対して口出しする人もいたり、食事後の後片付けやテーブル拭きなどを手伝う人もいる。おやつ作りなどは、職員と一緒に楽しみながら行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事は1人1人チェック表に記入し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアから夜間の義歯を外し管理して行っている。ご利用者によっては必要者には歯科往診での口腔ケアを取り組んでいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に毎日記入しご本人の状態に把握に努めている。	排泄については、利用者の個々の状態等を記録したものを職員が共有し、昼夜の排泄に対応している。 新人職員についても記録紙を確認させて排泄介助を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努めているが摂取が少なめのご利用者もあり、工夫をに努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本曜日での入浴を行っているが、体調不良などのタイミングに応じて日々調整して入浴を行っている。	入浴は一日おきに実施しているが、利用者の状況によってはいつでも入浴できるような体制をとっている。常にお湯は取り替え利用者が心地よい快適な入浴提供を行っている。汚染等が発生した場合には、いつでも対応できるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に午前、午後と状態に合わせての午睡を取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変化があれば密に観察を行い、状態に変化があれば薬の確認して把握に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業や家事、外出も含め個々での定期的な取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外周での散歩や行事での外出。ご家族へ依頼しての外出機会も設けている。	利用者本人の希望により外出したいとの申し出がある場合には、事業所の付近の外出などを行っている。 今後は外出行事を増やして利用者の皆様やご家族と一緒に外出できるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には管理できる範囲で金銭を所持して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には手紙のやり取り、電話での対応を個別に行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってエアコン、床暖房に配慮し温度計での詳しい環境作りに努めている。	事業所の周りには緑が多くあり、窓から見える景色も四季感があって心地よい。建物の中の換気も良く清潔感があふれている。手作りの桜の木が壁に貼り付けられ、雛壇も飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人がより良い関係を築けるよう必要に応じてテーブル席を変えている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや飾り物、写真等ご家族からの持ち込みを可としてその人のプライベートな空間作りを行っている。	居室には、備え付けのベット、小さな筆筒以外は利用者の使い慣れたものを持参されていた。写真を飾り、昔を思い浮かべられるような工夫もされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目指して必要に応じて介入を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホームさくらそう (ユニット名:すずかぜ)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028番地1		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果確定日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosovoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>さくらそうの理念の中心にある『笑』がある生活をスタッフ全員で入居者の方々を支え、笑顔で1日過ごして頂く事を目標に支援していくように努めている。 その為に、ご家族からの話を聞いたり、ご本人の特技や好み等を情報収集しケアに活かすように心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、思いやり、笑、安心、信頼を理念とし、みんなで支えあい、楽しく笑いながら、慣れしたしんだ筑後で過ごして頂く事を職員が共有できるように目に付くところに貼り付け、一人一人が役割を果たすようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の秋祭りに地元地域の方々を招待した。また、町内の草取り、河川浄化への参加を行い交流を努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症についての勉強会を行っていきたいが、開催していないのが現実。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方やご家族からの意見を聞く時間を設けている。行政からのご指導は受け手いるが、ご家族の参加が少なく意見があまりでない事が多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡は取っていないが、分からない事は尋ねていこうと思っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。外に出ようとする利用者の方には、職員が付きそうにしている。玄関の施錠は、夜間帯20時～7時頃までは施錠しているが、その時間以外は施錠していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習会や同グループ内の研修、勉強会の中で、虐待について考える機会設けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講習会や同グループ内の研修、勉強会の中で、成年後見人制度について考える機会設けているが、現在、該当する入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な説明を行っているが、ご理解、説明が不十分の場合には、早急に対応し理解して頂ける様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、確認しているが殆んど入っている事が無い。ご家族からは、面会に来られた時等にスタッフが声掛けし意見を聞く様にしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のグループホーム会議を行い、スタッフからの意見や提案を聞く様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行いスタッフの話を聞くことを行っているが、それ以外でも、個々の意見は随時、話を聞く様に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	20代から60代までのスタッフが働いており、働きやすい環境作りに努めているが、スタッフによって、いろんな意見がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	外部の講習会や同グループ内の研修、勉強会の中で、人権について考える機会設けているが、職員の中に届いているかは不問である。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップできるように法人内外での研修を受ける機会を作っており参加を勧めている。個人の成長に合わせて仕事の分担を行うようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加して、情報交換や勉強会を行っている。各グループホームに訪問していきたいと思っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂くために入居者の話しに耳を傾け、入居者の方が理解しやすく説明するように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時に不安や要望を聞く様にしており、その場で、答えられない場合は早急に答えられる様にし関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを行いながら、ご家族や入居者の方に意見があった支援に心がけている。必要であれば、他のサービスも考え対応する事に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見などを聞きながら、共同で住みやすい環境作りが出来る様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出等、ご家族にも協力して頂き、入居者との繋がりを持つように心がけている。その他、手紙で状況報告を行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた場合は、部屋に行きゆっくり話が出来る環境作り心がけている。馴染みの場所は行く事については職員対応では実施されていない。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係作りが出来る様に座席の配慮やスタッフが仲介に入るように努めている。トラブルがあった場合は、修復できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も個人情報に考慮しながら、他事業所の連携や対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族の話を聞く事で希望や意向の把握に努めている。困難の場合は、ジェスチャーや筆談などでなるべく理解できる様に心がけている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方については、ご家族やご本人に聞きフェイスシート書くようにしている。入居されてからも話しを行い情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人の観察から気付いたところを記録、連絡ノート等情報共有し把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時にご意見を聞くことや現場スタッフからの情報活用しケアプラン作成に努めている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動の観察や発言を記録し気づきやケアの見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設だけでは無く、併設施設と協力を行いながらご本人様にあったサービスが出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方が安心して過ごして頂く様に身近な地域やかかりつけ病院と交流を行うように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や変化があればかかりつけ医に連絡を行い受診や情報提供、相談を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況に変化があれば、すぐに看護師に報告を行い、必要に応じて病院受診に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にも看護師及び管理者、計画作成者が病院に訪問し、担当医、看護師等に情報提供や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、入居後にもご家族には重度化、終末期について話している。また、各スタッフやかかりつけ医と相談、往診も行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に看護師から指示を受けており、また緊急時の対応については研修を行っている。ただ、本当にあった場合の対応が見に付けているとは言い難い。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を実施し、併設施設との避難場所や緊急連絡網の協力体制は出来ている。地域との協力体制までは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを傷付けないように、その人にあつた言葉使いに気を付け対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を聞き入れ自己決定が出来る様に心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	入居者の方に合つた生活をして頂くために、ご本にの体調を考慮しながらペースに合わせて過ごして頂く様に心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪に注意し、必要に応じて訪問理美容サービスも行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の行事の時や外出の際は、弁当、食事やおやつを準備している。希望される方には、茶碗洗いや食事の準備を手伝って頂く事もある。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合つた食事の形態や必要に応じて補助食品を準備して対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯の洗浄を行い、週に1度洗浄剤での義歯の洗浄を行っている。必要な方は、訪問歯科受診を受けチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導や排泄チェック表を使用し排泄のパターンを把握や排泄の習慣に努めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンの把握と水分摂取に努めている。必要な方には薬での排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、日中であればご本人の状況、希望で入浴を行っている。入浴中は、なるべく楽しんで頂く様に話し掛けたりしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、車椅子での生活では無い様に椅子やソファ、居室で、その時の状況にあわせて過ごして頂く様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実の服薬のために、薬のセット表や服薬時にスタッフ同士で声掛けあっている。薬の内容については、スタッフの知識を深め努めていきたいと思っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、歌、新聞読み語り等、入居者のレベルにあわせたレクリエーションを行っており、家事を希望される方は、皿洗い、洗濯たため等を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは、入居者の状態をみて、外への散歩を行っている。年に数回しか行っていないため今後は、外出行事を多く取入れなければならないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設で金銭管理は行っていないが、ご家族、お本人の了承のもと、金銭管理ができる入居者に限り少額の管理を行えるが、現在、対象者はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻回に電話されるのは、ご家族の負担になられる場合がある為、ご家族の了承をえて電話して頂ける様にしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努める為、担当のスタッフが、廊下や居室の掃除を行っている。季節感があじわえる様に部屋の工夫をもっと取り入れていきたい。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて一人の空間を作ったり、利用者同士が話せる空間づくりに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや寝具等を持って来て頂いている。ご家族と相談しながらご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は、自分で行っていけるように、自立支援に向けた介助に努めている。		